

環境民生部会報告書

どこよりも子育てしやすいまちへ



脱不法投棄のまちへ



新エネルギー推進へ



環境民生部会

目 次

1	構成委員.....	1
2	会議の経過.....	1
3	まちづくり町民会議環境民生部会の概要.....	2
	少子化対策・子育てについて.....	3
	高齢化対策について.....	4
	医療について.....	4
	福祉全般について.....	5
	ごみ収集・不法投棄・リサイクルについて.....	6
	糞尿・食物残渣等の堆肥化について.....	6
	省エネ・新エネについて.....	6
	環境問題全般について.....	7
	防犯について.....	7
	温泉について.....	8
	その他.....	8
	(1)農業関係について.....	9
	(2)観光関係について.....	9
	(3)幕別ブランドについて.....	9
	(4)企業誘致・雇用対策について.....	9
	(5)公共施設について.....	9
	(6)学校関係について.....	9
	(7)生涯学習について.....	9
	(8)除排雪について.....	10
	(9)行財政について.....	10
	(10)まちづくり全般について.....	10

1 構成委員

環境民生部会の構成委員は次のとおりです。

氏名	住所	備考
浅井 雅之	幕別町札内青葉町 3 1 0 - 6	部会長
黒沼 茂樹	幕別町字明倫 1 1 2	
井上 潤一	幕別町忠類幸町 2 0 - 1	
上田 敏也	幕別町本町 9 5	
大野 圭市	幕別町札内豊町 5 - 2 6	
西田 由美子	幕別町札内中央町 4 8 8	
澤部 紀博	幕別町札内北町 1 2 - 1 4	

2 会議の経過

区分	開催日	場所	テーマ
第 1 回ワーキング部会	平成 18 年 12 月 14 日	百年記念ホール	○部会に分かれて幕別の問題点・長所・短所などを洗い出す。
第 2 回ワーキング部会	平成 19 年 1 月 23 日	町民会館	○少子化 ○子育て ○公共施設
第 3 回ワーキング部会	平成 19 年 2 月 9 日	町民会館	○食物残渣の堆肥化 ○太陽光発電 ○幕別ブランド
第 4 回ワーキング部会	平成 19 年 2 月 22 日	百年記念ホール	○検診・医療・病院 ○少子化・子育て ○環境
第 5 回ワーキング部会	平成 19 年 3 月 16 日	町民会館	○福祉 ○除雪
第 6 回ワーキング部会	平成 19 年 3 月 28 日	百年記念ホール	○協議の集約 ○報告書の作成

3 まちづくり町民会議環境民生部会の概要

【総評】

環境民生部会では、まず福祉医療の部門においては、おもに子育て支援に関することに話題が集中しました。昨今の現状としては、高齢者福祉に重点を置いている向きがありますが、今後10年の計画の中では、少子化対策に重点をおいた施策が重要になってくるものと思われます。従って子どもに係る施設の充実や、子育て支援のための助成や減免、防犯体制の強化など、子育てしやすく、子どもを安心して産むことができる環境づくりなどが必要であると思われます。

また、高齢化の進展とともに寝たきりや障害を持つ人が増えてくることが予想されます。事後の対策も当然にして必要ではありますが、そうならないため、もしくはそのような状況を減らしていくためには、予防医療の充実が一層必要になってくるものと思われます。多くの人々が検診を受けやすい体制づくりとともに、病気を予防する知識を一人ひとりに普及啓発していくことが必要と考えられます。

一方、環境衛生部門では、環境保護に関する意見が多く、省エネ・新エネをはじめ、ゴミの不法投棄の根絶など、循環型社会の形成に対する実践と意識付けが必要であるとされました。詳細は次のとおりです。

少子化対策・子育てについて

[優位的現況・長所]

- ・農村部では、子供が多いという統計数字がある。同じ服を着せても気にならない。庭で野菜を作って食べることができる。祖父母がそばにいる。育てやすい環境である。

[問題点・課題]

- ・育児支援センターの使用時間が短い（子どもが物足りなさを感じている）
- ・育児サークルが少ない（自由に使える会館、新しいサークルにも支援を）
- ・子育てが母親の重圧になっており、子供を産まないのではないか。
- ・子育てにはお金がかかる。子どもを多く産むことはできない状況にある。
- ・結婚しなくてもいい人が増えている。男女雇用均等法で結婚しなくても、働いて生きていける。今のライフスタイルを崩したくない。
- ・高齢者施策も大事だと思うが、今、生まれた子供や小さい子供たちは、将来があるのに、社会保障や福祉の負担でこんなに苦勞を背負わせていいのかと思う。
- ・子供を育てることは日本の底上げになり、ひいてはお年寄りのためになる。政策の順番が逆である。
- ・子育ての政策は、国のインフラ、未来事業である。医療とか高齢化に対する事業は、後始末である。
- ・パークゴルフは、公園から子供を追い出してしまった。子供の遊び場を無くし、子供たちは家でゲームをしている。
- ・忠類のふれあいセンター福寿では、平日の放課後や土日祭日とかに子供たちがたくさん来ていて、異世代の交流が盛んである。幕別では、土・日に安全に遊べる場所がない。

[施策・方向性]

- ・町が養成した（研修を受けさせた）時間のあるお母さんなどが有償ボランティアで

子育て中の親を支援する制度（登録制）を実施。（芽室の場合は子育て育児支援ネットワーク）

- ・休日などに申し込まなくても小学生が行くことの出来る居場所の設置（子どもに目の届く大人が常にいるところ）
- ・子育てが楽しくなる環境づくりが必要。
- ・地域の子供と遊んでくれて、面倒を見てくれるような高齢者を増やす。
- ・議会においても、もっと子どもたちに対する施策の議論をしてほしい。
- ・保育所の入所条件の緩和など、どの町村よりも子育てしやすい町にしたい。
- ・少子化を免れた外国では、産まれてくる子供は国の子供として育てており、老人の医療費等がある程度抑えてでも普通の教育と普通の生活を確保している。構造転換が必要
- ・子ども達のためにもスポーツや文化にもっとお金を出してほしい。
- ・本州の村で出生率を上げるために公共工事は止め、土木工事等はボランティアでやって、子供に対する事業は、夫婦世帯の公営住宅整備や中学生まで医療費無料、保育料の半額助成などを行って、出生率が2人台にまでなっており、道路整備とかの基盤整備は大事だが、それを維持していくのはこれからの世代であり、多少施設等は朽ちてもよい。
- ・諸外国では、お年寄りが公園でのんびりしているところに子供たちが寄ってきて交流している。子供を育てるのは施策だけでなく、地域が育てていくことが必要である。
- ・子育てしていて楽しめる環境であれば、子供を産むであろう。単に出産費やおむつ代の補助ではなく、精神的なことから金銭的なことまでトータル的に考える必要がある。
- ・子育てしている親の世代は、一番働く世代で、体力があって、頭が回って、経験を積んで、何でもできる時期である。今の仕事はこなす仕事ではなく発想する仕事、頭を使う仕事が多いので、子育てを心配していたらフルに動けない。地域や国にがっちり守られていたら、一番働かなきゃいけない世代が仕事に集中することができ、そういうふうになればいいのだが。
- ・今まで、高齢者福祉にお金をかけることが一般常識となっていて、高齢者福祉はもう充実しているので、子育てにお金をと主張することが禁句とされるふしがあった。これからは同じくらい子育てにかけてほしい。

高齢化対策について

[問題点・課題]

- ・今の若年層は可哀想である。これから65歳まで定年が延長し、働く場が少なくなる。年金をもらうお年寄をたくさん抱えさせられて、健康保険や国民年金を払えというのはひどい。
- ・日本の国土とアメリカの国土を比較すると、日本の住むべき人口は、2,500万人ぐらいがちょうど良いとのことであり、それを考えると高齢化は問題である。
- ・社会福祉の実情が今ひとつ見えない。（お金をかけている割に）
- ・このまま高齢化社会続けば福祉サービスは成り立たないのでは。

[施策・方向性]

- ・幕別の高齢者に対する福祉はもう行き届いている。今度は子育てに。

医療について

[優位的現況・長所]

- ・知り合いも勧められて脳ドックを受診して、脳の中に瘤ができていたのが発見できて、助かったこともある。

[問題点・課題]

- ・脳ドックでちょっとした影が見つかった場合、医者が切りたがる。術後の後遺症で寿命が縮まったりとかあり、脳ドックの受診もどのようなものかと思う。
- ・耳鼻科や皮膚科などの専門医療施設が少ない。
- ・札幌・幕別・忠類の人は、風邪など軽い病気は地元で受けるが、不安がある場合は、帯広市の総合病院に行くので、病院が増えない。
- ・新しい病院がほしいという意見があるが、音更町では、人口が5万人に近いこともあり、徳州会病院など新しい病院ができてはいるが、幕別町では無理ではないか。
- ・昔は、病院に行く人間が少なかった。新しい病院がほしいというのは、精神的虚弱体質の人が増えてきているからではないか。過保護にすると人間は弱くなってくる。
- ・産婦人科が帯広市と芽室町しかない。十勝の子供はほとんど帯広市で出産している。昔は、お産婆さん呼んで自宅で出産していた
- ・帯広駅周辺の分譲マンションは高齢者が買っているが、除雪をしなくてもいいし、急な病気の際も市内の総合病院に近いということではないか。幕別とは環境が違いすぎる。
- ・生活のしかたが変わった。昔は病院知らずで亡くなるお年寄が多かったが、今は病院に何年も通った後に亡くなる。その分寿命が延びている。それで国の財政にも影響がある。

[施策・方向性]

- ・人間ドックも1年に1回受診しても、1年間でがんができて、大きくなっていることもあり、健康管理をしっかりするのであれば、年2回やるのがベストである。2回目は軽めで実施すればよい。
- ・脳ドックは、親が脳出血等で亡くなっている等、遺伝が気になる方は受けたほうがいいのか。
- ・障害者を増やさないためにも、医療費も減らすなど予防医療の観点から各種検診は受診したほうが良いのではないか。
- ・死亡の3大死因は、がん、心疾患、脳疾患であり、生活習慣病から起因しており、各種検診を受診して予防は可能である。
- ・食に関する教育も生活習慣病を予防するのに重要である。

福祉全般について

[優位的現況・長所]

- ・農村部では、高齢者の仕事が多く、やることがあると痴呆が少ない。

[問題点・課題]

- ・最近国の施策で施設から在宅へと変わってきているが、認知症の在宅での介護は、介護者が参ってしまう。
- ・アルツハイマー病の方を病院で受入れないのはおかしい。
- ・認知症の方の施設が足りないのではないか。
- ・福祉に関しては、複雑で分かりづらいので、窓口の一本化（ワンストップ窓口）をした方がよい。昇降リフトのリースが受けられることが、たらい回しで半年かかった。

[施策・方向性]

- ・家族の方でヘルパーの免許があれば、それに対して町としていくらか補助する制度があれば自宅で介護するのではないか。
- ・国で在宅での介護に予算を重視して、身寄りの無い人については、施設で見るような形がいいのではないか。
- ・福祉のどの分野がどの仕事をしているのか分かりやすいチャート式の図表みたいのがあればよい。どの施設がどういう状態の人を受け入れてくれるのも。福祉だけでなく役場の仕事全般に言えること。
- ・町内には色々な技術を持った方がいるので、福祉器具や昇降リフトなどの機械ぐらいなら作れるので、安い価格で提供できるのではないか。そのようなシステム。ボランティア、法人等の設立。

ゴミ収集・不法投棄・リサイクルについて

[優位的現況・長所]

- ・ゴミ収集時間が早くてよい。

[問題点・課題]

- ・リサイクルの現状（どの程度処理されて、金額や再利用の状況など）が住民には分からない。
- ・ゴミの不法投棄が多い。

[施策・方向性]

- ・歩道上にゴミを置くだけのステーションは見栄えが悪く、不衛生であるので、箱型のステーションなど検討
- ・リサイクルの現状を広報等で周知すべき。
- ・ゴミのポイ捨て・不法投棄条例の設置

ふん尿・食物残渣等の堆肥化について

[問題点・課題]

- ・食物残渣のバイオマス利用の堆肥だと調理後の残渣は醤油などで塩分が強くて使えないのではないか。
- ・他市町村で作って配っているし尿処理場の堆肥は、トイレの洗剤など塩素系が混ざっているのか、製品は良くない。手が荒れるし、ミミズがいなくなる。本町は大丈夫か。

[施策・方向性]

- ・堆肥の関係で、定山溪や札幌市のホテルで調理前と調理後の残渣を分けて地域一体で回収して行っている。幕別も考えてみてはどうか。
- ・網走でのレストランをやっている人で、ホタテの殻と食物残渣で堆肥を作って、有機野菜を作って提供している。幕別も検討してはどうか。

省エネ・新エネについて

[優位的現況・長所]

- ・さかえ保育所の太陽光発電は、省エネ、新エネのPRになっていい。
- ・太陽光発電導入している人は、コストよりも自分の電気は自分で賄うという気持ちで設置している。
- ・バイオエタノールはとうもろこしや麦を原料にするのではなく、食物残渣を利用し

てできるようになった。

- ・ホクレンで国の事業で清水町にバイオエタノールプラントを作るが、材料は小麦の規格外品と増産する余ったビートでやるようだ。

[問題点・課題]

- ・ビートをバイオエタノールの原料に本格的にすると、ビートの値段は4分の1になる。それにビートをまわすようだと農家は苦しい。
- ・環境問題で企業を動かすには、利益が上がらないとだめである。太陽光にしても環境問題に参加しようということ、ボランティアでやっているような人が少しいるだけで、やはり電気代がただになるくらいの補助があるとか、メリットがないと大勢の人に普及していかない。
- ・ペレットストーブについては、ヨーロッパでは国で補助している。日本でもカラマツの間伐材が余っているから、今やっているだけで、将来に向けた植栽をしていかなければ材料がなくなる。
- ・原油価格が落ちているので、このまま価格が落ちればペレットストーブもバイオディーゼルも普及しないのではないか。
- ・幕別町だけお金を使って環境問題に取り組んでも、周りで化石燃料を使って二酸化炭素を放出しているのは意味が無い。空は幕別町だけのものではない。そういったことを考えると国が政策で取り組むべきである。
- ・家庭のストーブで性能が良くて、ごみを燃やせるものがでてこないか。
- ・太陽光発電は、日中の余った電気を売電しているが、蓄電できれば、なおよいが設備費用が高すぎる。

[施策・方向性]

- ・環境問題に本気で取り組むなら、新エネルギーが軌道に乗るまで、税金を投入しなければならない。
- ・ペレットストーブや太陽光の助成は、地域のまちおこしの観点で、本気でやり続けることが必要である。
- ・幕別町は太陽光発電のまちとして、アピールするのもおもしろい。本気で取り組んでみてはどうか。
- ・太陽光発電を導入することにより、今日はこれくらい売電できたとかということで、節電の意識も生まれていいのではないか。
- ・十勝レベルで太陽光発電を導入すれば、現状の価格よりだいぶ安くなり、普及する。

環境問題全般について

[優位的現況・長所]

- ・素晴らしい風景がある（明倫、共栄牧場）

[問題点・課題]

- ・途別川では、カジカが泳いでいたが、今では河川改修や水質の関係等でいなくなった。トンボや蛙もいなくなり、40年くらい前と比べると自然環境はかなり変わっている。
- ・国道38号線を中心に長距離トラックがスピードを出しすぎる。子ども達の安全、騒音に問題

[施策・方向性]

- ・今後は環境をぬきにした産業の発展はないので、環境重視の経営を考慮すべき。
- ・自然を保護するには、目に見えないものがあり、何も手をつけず、開発しないことが大事である。

- ・屋久島に行って思ったが、世界遺産である縄文杉や紀元杉など自然に触れると心も体も癒され、長生きができると思う。
- ・沖縄県は日本一の長寿地域であるが、自然環境がよく、ストレスなく生活できるからではないか。そのような環境づくりを。

防犯について

[問題点・課題]

- ・犯罪が凶悪化してきている。

[施策・方向性]

- ・子ども 110 番の旗が立っていてもその家が入りやすくはない。顔見知りのコンビニに逃げ込んでいる。朝と夕の通学時に玄関に立ってもらう。学校で紹介をする機会を設ける。
- ・防犯、見守り、相談などに老人パワーを使う。見守る人を町で認定登録する。

温泉について

[施策・方向性]

- ・無料で入れる露天の温泉が欲しい（屈斜路湖、菅野温泉のような）
- ・本町・札内地域からアルコに送迎バスを

その他

(1) 農業関係について

- ・幕別の和牛をもっと売り込んだ方がよい。
- ・幕別ブランドとして維持していくためには、赤字でもキャベツ、長いもを作らなくてはいけない。
- ・食料基地として、北海道はもっと力を入れていくべきだ。
- ・「食料基地としての北海道」という表現は、ある会議で「北海道だけで全国の食糧を賄っているのか」という事で他府県からの批判がすごかったので、使わない方が良いのではないかと。（逆の意見）各種計画とかでは、よく使われている。道内だけでは問題がないのでは。
- ・現在、幕別農協が十勝管内の農協から注目されている。何十年も前は、何も特色のない農協だったが、国や農家の出資により、東洋一の真空予冷施設を2基作っている。また、大きな施設を作った結果、真空予冷した野菜は貯蔵性がよく、新鮮だということで、北海道で幕別町だけが沖縄まで野菜を出荷しており、収益をあげている。
- ・幕別農協では、土づくりのための堆肥のあっせんや輸送、切り返し、散布を農協で一括引き受けたり、新しい野菜に取り組むにしても苗の仕立てから、移植機の手配、収穫時の人員の確保などすべて一貫体制が整っており、品目横断で野菜に切り替えようとしている農協が多く、販路や職員のノウハウ、予冷施設が無いため、幕別農協を参考にすると多い。
- ・幕別農協は、播種時期を計画的に統制していることから、収穫時の出荷調整が管理されており、市場に安定供給している。ただし、収入については春から秋まで高い時期安い時期含めて野菜農家全体でプールして配分しているため、個々の農

- 家では野菜の価格が高いときに出荷して設けることもできないという面もある。
- ・品目横断により、畑作4品から野菜にシフトする農家が増え、農協のラインがきつい状態である。来年の人参や大根の作付面積が倍になっている。
 - ・品目横断により、離農する農家が増えるのではないかと、後継者もいなくなるのではないかと。
 - ・農業で生き残るには先を見越した経営をする人でないと生き残れない。例えば酪農では、牛乳が生産調整されて苦しいが、肉牛の市場価格がいいので、ホルスタインに和牛の受精卵を移植して儲けている方がいる。
 - ・十勝の面積は府県で秋田県に次いで、7番目の面積があり、十勝ひとつで同じものをつくと大変なことになる。
 - ・日本の野菜は安全である。中国の野菜は、農薬規制が緩く残留農薬の数値が高い。中国の方が日本で漢方薬を買っているくらいだ。中国のウーロン茶の葉っぱは見事なくらい虫がつかないように薬をかけている。
 - ・幕別町は農業が主幹産業の町なのに、小学生の農業体験をさせてくれるところが少ない。札内地区の小学校だが札内地区での農家で受入れるところが無くて、明倫まで来ている現状がある。将来、子供たちが農機具メーカーや農協、消費者団体に勤める可能性があり、大事にしたほうが良い。

(2) 観光関係について

- ・通過型の観光客に寄っていただけのような、百年記念ホールの前の敷地を利用して大型駐車場を配備し、ファーマーズマーケットや十勝のお菓子を一堂に集めて販売するような施設ができないものか。

(3) 幕別ブランドについて

- ・幕別ブランドは、前にきな粉焼酎「豆しずく」、忠類でも「わさび焼酎」があった。当時の焼酎ブームで作ったが、消えてしまった。
- ・レタスが相川中心で90ヘクタールほど作付けしているが、7月、8月の全国のマクドナルドのハンバーガーのレタスが、全量幕別町のレタスで賄われている。
- ・北海道では、レタスの大産地はない。個人でたくさん作っている方はいるが計画的に出荷できるのは幕別町だけである。
- ・マクドナルドのレタスは幕別産だと宣伝すればいいのではないかと。
- ・長いもの作付面積は、単一市町村で帯広市と幕別町がどっこいどっこいである。忠類のユリ根も有名である。
- ・産学官の連携のもと幕別の農産物を生かした加工品の開発などを進めてはどうか。

(4) 企業誘致・雇用対策について

- ・退職延長が進むと、若者の働き口が減る。
- ・明治乳業が芽室町に大きな工場が建てられたが、そのころに幕別にも打診があったという噂を聞く。企業誘致を待つのではなく、専門の職員を配置して担当者から指示をして、積極的に誘致する意欲を見せてほしい。幕別はおとなしすぎる。
- ・子育てのまちにするのはいいが、その後に働く場所がなければ子どもはよその市町村に行ってしまう。

- ・清流大橋付近は道路を整備するときに周辺地を開発するという計画になっていたはず。大型商業地開発はなぜできないのか。国道 38 号沿線も含めて企業誘致を積極的にすべき。
- ・空き店舗の利用法として、幕別はそば打ち名人が多いので、色々なそばの店を出してそばのまちとして売り込んではどうか。

(5) 公共施設について

- ・今後、公共施設を民間に売却して、色んなことができるようにしたい。

(6) 学校関係について

- ・田舎の学校の良さを残したほうがいい。都会の学校と交流したら良い。
- ・統廃合に伴う、空く教員住宅の有効活用を考えては。
- ・江陵高校は、学校の先生が熱心で生徒数を増やしている。
- ・忠類の子供たちは南十勝の高校に通っているが、合併を機に同じ幕別町ということで幕別高校への進学が増えないものか。
- ・広尾高校では学校が一生懸命工夫をして国公立 10 人という成果を上げている。高校の進学指導などで差が出るのは、個人レベルなのか、学校レベルなのか、教師が転勤しても変わらないのであれば、学校レベルだと思っているので、もっと幕別高校も力を入れてはどうか。

(7) 生涯学習について

- ・百年記念ホールの利用率が高いので、たくさん利用できるように催し物を考えていく必要がある。
- ・芸術を推進するまちにしてほしい。いろんな芸実家を積極的に呼んだりすると意外とすごい人が来たりする。そこから人材や企業のつながりが出てくる。

(8) 除排雪について

- ・アンケートで除雪に関する不満が多いが、委託業者は除雪作業は一生懸命やっている。丁寧にやると時間がかかり、お金もかかる。限られた予算の中では難しいのではないか。
- ・札内の新興住宅地では雪捨て場がない。そのため、道路に投げるしかなく、その後、除雪車が入って硬い雪が家の前に置かれてしまう。
- ・雪捨て場がないため、カーポートやロードヒーティングの設置が増えている。
- ・高齢者は、除雪に困っている。排雪については町内会で行っているところもあるようだが、そういうところは少ない。

(9) 行財政について

- ・企画室として、この厳しい時代に頑張っ成果を上げている学校や企業を視察・研修して、幕別町が衰退しないようにしてほしい。

(10)まちづくり全般について

- ・役場の人に斬新なことをやってほしい。役場の人何か新しいことを取組んで少しでも失敗すると住民や上司は批判をする。結局新しいことはできない体制となってしまう、つまらない行政となる。そういう体制を変えてほしい。
- ・池田町が町長の命で担当者に外国に視察に行かせ、ワインを取り入れることを積極的に行なった結果が、あの全国的にも有名なワインの町となった。このような積極さが必要。